

このページは、直接入力できません。そのまま見るか印刷して使ってくださいね!!

おもしろ国語②

もちづき おぼろづき

望月、朧月という言葉を知ったことがありますか。

この世をば、わが世とぞ思う望月のかけたることのなしと思えば

平安時代に藤原道長が詠んだとされるこの句は、社会の学習でも出て

きます。望月は、満月のことを言います。一方で、朧月は、月の形に

は関係なく、春に霧などでかすんだ月のことをいいます。♪菜の花畠(は

たけ)に 入り日薄れ・・・♪で始まる歌でも有名ですね。このように、

日本では、古くから月や月夜の様子を様々に言い表してきました。

「かすんだ月」といわれるよりも「おぼろ月」といわれたほうが、美しい風景が浮かびませんか。他にも、次のような言い方があります。

月の形の呼び方

三日月 (ほかに若月、眉月も同じ月)

上弦の月 (新月から七日頃の月)

右半分が見えている半月)

十日夜の月 (新月から十日頃の月。上弦の月よりいくぶん

ふっくらとふくらんだ月)

十三夜月 (新月から十三日頃の月。満月に次いで、古来より美しい

月とされています。)



こもちづき
小望月（満月の前の日の月）

もちづき じゅうごや
満月（別の呼び名に望月、十五夜などがあります）。

いせよこ
十六夜の月（満月の翌日の月。月の出がやや遅くなるのを、月がためら
っているから見立てています。）

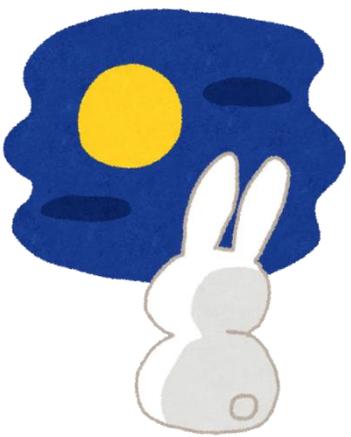
たちまちづき
立待月（十五夜以後、月の出がしだいに遅くなり、立って待っている
間に出る月という意味）

いまちづき
居待月（十五夜以後、月の出がしだいに遅くなり、座って待っているう
ちに出る月のこと）

ねまちづき
寝待月（十五夜以後、月の出がさらに遅くなり、寝て待つ月の意味）
かげん つき
下弦の月（満月が過ぎ、下半分がしだいに欠けていく月。左半分が見え
ている月）

月にかかわる日本語には、ほかにもまだまだあります。

月華（げっか） 月と花
佳月（かげつ） めでたい月
佳宵（かしょう） うつくしい月のこと
空の鏡（そらのかがみ） 澄んだ月、秋の名月
宵月（よいづき） 夕暮れの間だけ出ている月
片割月（かたわれづき） 半月
湖月（こげつ） 湖水に映った月。湖上の月
残月（ざんげつ） 夜が明けても、空に残っている月



フラワームーン・ストロベリームーン等外国の月の呼び名も素敵ですが、日本
ならではの呼び名も趣おもむきがありますね。いろいろ調べてみてください。

